

令和 2 年 6 月 30 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04753

研究課題名（和文）エビデンスに基づいた読書の認知的・非認知的側面の評価手法の開発と評価ガイドの提案

研究課題名（英文）Evidence based research on assessment of cognitive and noncognitive aspects of reading

研究代表者

足立 幸子（ADACHI, Sachiko）

新潟大学・人文社会科学系・准教授

研究者番号：30302285

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本の小・中学校において教育のエビデンスとしての読書力評価を開発するために、諸外国で通用している読書の認知的側面の評価としてテストや読書指導におけるルーブリックを用いた評価を、非認知的側面の評価手法として質問紙調査を研究した。認知的側面の評価手法としては、PIRLSなどの国際調査、米国CBALやスペインEsEPなどの国内調査を研究した。読書指導の手法としても米国のGenre Study、In2Booksなどを研究し、その手法を用いた日本の小学校での実践研究において評価手法の実験を行った。また、非認知的側面の調査として、読書へのアニメーションの実施に基づいた質問紙調査を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、読書力評価を認知的側面と非認知的側面の両方から、複数の国際調査、複数の外国の国内調査、調査だけでなく教室における具体的な読書指導場面での評価などを、様々な局面からとらえて統合した点にある。また、本研究の社会的意義は、紙のペーパーテストのみならずデジタルリテラシーの評価という点から、文学的文章・説明的文章という区切りではなく様々なジャンルから、読書の現代的現象を評価していくことを提案している点にある。

研究成果の概要（英文）：In this study, I searched international and national assessment of cognitive and noncognitive aspects of reading. I analyzed PISA (Program International Student Assessment), PIRLS (Progress in International Reading Literacy Study), CBAL (Cognitively Based Assessment of, for, and as Learning) and EsEP (Evaluacion sexto curso de Educacion Primaria). I adapted U.S. instruction and assessment of genre-based reading program used In2Books rubric. Moreover, I examined a survey for assessment of noncognitive reading for Spanish reading program "Animacion a la Lectura".

研究分野：国語科教育学

キーワード：読書 (reading) 評価 (assessment) テスト 質問紙調査 ルーブリック 読書意欲 読書の取組 デジタルリテラシー

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

(1) OECD の国際学力調査 PISA における読解力得点の低下を受けて、日本では全国学力・学習状況調査が行われ、全国規模で国語学力の評価が行われるようになった。

(2) 2017 年の学習指導要領改訂においては、「主体的で対話的な深い学び」が目指されているが、「読書活動の充実」が 2008 年改訂から継続して取り上げられ、読書がこのような学びに資するものであることが求められている。

(3) そのような中、内外の学会でも、エビデンスを元にした読書に関する教育研究・教育政策の重要性が強調されるようになってきている。本研究は、そのエビデンスの取り方を研究するものでもある。

2. 研究の目的

本研究では、国際テストや海外の国内テスト及び海外の読書指導法を検討し、読書の認知的側面だけでなく、読書の非認知的側面（読書に対する取り組み、読書習慣、読書態度など）に焦点をあてた、読書力評価の評価手法を開発することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では大きく分けて 3 つの研究方法をとっている。

(1) 1 つ目は、国際テストの研究である。具体的には、経済協力開発機構が教育インディケータ事業として行っている PISA、国際教育到達度評価学会が行っている PIRLS (Progress in International Reading Literacy Study) が研究対象である。

(2) 2 つ目は、諸外国の国内テストの研究である。アメリカの NAEP (National Assessment of Educational Progress) やスペインの国立教育評価研究所が行っている EN(Evaluaciones Nacionales) などが該当する。

(3) 3 つ目は、諸外国の読書指導法の研究である。具体的には、アメリカの Genre Study というジャンルを基にした読書指導法、In2Books という読書をして手紙の交換をする読書指導法、リテラチャー・サークルやインクワイアリー・サークルという小集団の読書指導法、スペインの読書へのアニメーションという集団の読書指導法である。

それぞれについて、どのような評価がなされているか、認知的側面・非認知的側面の両方について検討する。

4. 研究成果

まず、本研究期間（2017 年 4 月～2020 年 3 月）の開始初めに、読書（読むこと）の認知的側面及び非認知的側面における評価を検討するという本研究の枠組みを、2017 年 5 月の第 132 回全国大学国語教育学会において「エビデンスの構築と課題」という課題研究で提示した。これは、本研究が、内外の学会の動向において重要な位置にあることを示すものである。なお、その発表は、後に全国大学国語教育学会編(2018)『国語教育における調査研究』東洋館出版社に掲載された。

以下、「3. 研究方法」で述べた 3 つの研究対象に沿って、研究成果を述べていく。それぞれが認知的側面の評価なのか、非認知的側面の評価なのかを表 1 に示す。() は十分には研究できなかったものではあるが、それぞれの研究を進めていくために必要であったものである。

表 1 研究の対象と分類

	(1)国際テスト	(2)外国の国内テスト (二国間比較)	(3)読書指導法
認知	(PISA) PIRLS	(NAEP) CBAL (EN)EsEP	Genre Study In2Books (リテラチャー・サークル) インクワイアリー・サークル
非認知	(PISA) (PIRLS)	(NAEP) 日米学生読書実態・意欲調査	読書へのアニメーション

(1) 国際テスト

国際テストとしては、まず PISA が挙げられる。PISA は、2009 年からデジタル読解力を測定するテストがコンピュータのテストが作られ、2012 年にもそのテスト問題が使われた。2015 年調査は、全面的にコンピュータを用いたテスト(CBT)に移行した。2018 年調査は、日本での調

査結果の発表（日本に焦点を当てた邦訳）が2019年12月になったため、タイミングの上で十分な検討が行えなかったが、読解力の枠組み等については、国際テストPIRLSや外国の国内テストEsEPを研究する際に比較研究を行った。PIRLSは、2016年調査で初めてコンピュータを使用したデジタルリテラシーを測定するテスト(ePIRLS)が作られた。本研究ではePIRLSにおける「火星」「エリザベス・ブラックウェル博士」の2つの大問の問題を分析し、教室での調べ学習の文脈をシナリオテスト的に行うことで、コンピュータを用いた読書の認知的側面の評価を行っていることを明らかにした。その際に、PIRLSは文学的体験を得るために読む文学的テキストと、情報を得るために読む情動的テキストの2大ジャンルで扱われているのであるが、ePIRLSは情動的テキストの読書に特化していること、読む過程としては【情報の取り出し】【直接的推測】【解釈・統合】【評価】というPIRLSの過程と変化はないことを明らかにした。

PISAにもPIRLSにも質問紙調査がある。PISAには、「学校質問紙」「生徒質問紙」「ICT質問紙」の3種類の質問紙調査がある。PIRLSには、「児童質問紙」「ePIRLS質問紙」「家庭質問紙」「教師質問紙」「学校質問紙」「教育課程質問紙」の6種類の質問紙調査がある。非認知的側面の評価としては個々の生徒・児童が回答する「生徒質問紙」及び「児童質問紙」が該当するが、他の調査も生徒や児童の読書の背景を把握するために関連する調査と位置付けられる。これらについては情報を収集したのみで、十分な分析を行うところまではできなかった。

(2) 外国の国内テスト（二国間比較研究）

アメリカで毎年行われているNAEPについては、現在新しい枠組みの検討が行われている最中である。NAEP2017年調査について検討しようとしていたところ、アメリカの教育試験サービス(Educational Testing Service: ETS)作成のCBAL(Cognitively Based Assessment of, for, and as Learning)という思考力(アーギュメンテーション・スキル)を測定するテストの情報を得た。CBALは読書だけでなく、書くことなどを含む幅広い思考力を測定し、小学生から高校生までその結果を教室の場面に還元できるように作成されたテストである。そこで、CBALの情報を取り寄せ、測定されている能力及び枠組みの分析、具体的な問題の分析を行った。その結果、CBALのテストでは、5つのレベルが設定されており、構成課題とシナリオ課題という2種類のテストが、コンピュータを使用する形で作成されているということが分かった。レベル設定や枠組み設定を行うことが重要であることを明らかにするとともに、シナリオ課題という新しいタイプのテストは今後のテスト作成で多いに参考になると考えた。スペインの国立教育評価研究所 INEE (Instituto Nacional de Evaluación Educativa)で行われている全国テスト(Evaluaciones Nacionales)は、小学校3年生、小学校6年生、中学校4年生で行われている。特にそのうち小学校6年生について詳しく検討した。小学校6年生のテスト(EsEP: Evaluación sexto curso de Educación Primaria)は、以前は小学校最終学年調査(EfEP: Evaluación final de Educación Primaria)と呼ばれていたものである。その結果、「物語」「記述」「説明」「指示」「説明と指示」で1つのジャンルとしている年もあり「議論」の5つのジャンルについて、テスト問題が作成されており、このうちいくつかは、読むことだけでなく、聞くこと、書くことについてもテストが作成されていることを明らかにした。比較研究として、日本の全国学力学習状況調査、新潟県新潟市小学校教育研究会の学習指導改善調査と比較した。その結果、教師の学習指導の改善を目的としているところは共通していたが、取り上げるテキストのタイプ(ジャンル)、認知過程などの枠組みの設定がかなり異なることを明らかにした。スペインのテキストのタイプや認知過程は、国際テストPISAやアメリカの国内テストNAEPと類似していることも解明した。

NAEPには児童・生徒用の質問紙調査があるが、本研究の期間内にその調査の内容を詳しく検討することはできなかった。しかし、二国間比較研究として、日米の学生における読書の実践および意欲についての比較研究を行う機会を得た。これを応用して、将来的には小学校3年生から6年生への日米比較研究へと発展させる予定である。

(3) 読書指導法

アメリカの読書指導法として、まずFountas & Pinnellのジャンル研究(Genre Study)を考察した。様々なジャンルの読書材をそれぞれのジャンルに応じて読んでいくことの指導である。関連して、物語、社会科読み物、伝記、民話、理科読み物の5つのジャンルについて読んで手紙交換を行うIn2Booksについて、2016年7月から2017年3月に行った実践を、本研究期間に分析した。具体的には、In2Booksのルーブリックを応用して、それぞれのジャンルに応じた本についての読書結果を示した手紙を、どのように評価すればよいか、調査に協力した大学生とともに分析・検討した。ルーブリック自体は、発達の過程が分かるように同じものを使用し、しかしジャンルごとに、どのような主題把握、思考、語彙などが手紙に表れていけばよいかを細かく設定していくことが重要であることを明らかにした。リテラチャー・サークルについては、その発展形であるインクワイアリー・サークルを研究の対象とした。リテラチャー・サークルは子どもが読みたい本を選び小集団になるのに対し、インクワイアリー・サークルは子どもが探究した課題を選び小集団で探究していく。その中で、紙の本だけでなく、オンラインのコンテンツも多く用いられること、誰かに向かって発表・表現する機会を設け評価を行うことなどが明らかになった。

スペインの読書へのアニメーション(Animación a la lectura)は、予め本を読んできて子どもた

ちが「作戦」と呼ばれるゲーム的な手法で、読書に関する様々な方略を学んでいくというものがある。研究期間中に小学校2校（小規模校と大規模校）で実践を行うことができた。その実践が終わった段階で質問紙調査を行い、普段の読書の実態はどのようなか、児童はどのようなことをアニメーションの効果であると感じているかについて調査した。児童の質問紙調査では、読書へのアニメーションを通じて、児童が注意深く本を読むようにしていること、本を使って遊ぶのが楽しいと感じていること、一人で読むよりもさらに楽しいと感じていることなどが明らかになった。しかし、一方で読書へのアニメーションが読書量を増やしたと断言することはできなことも明らかになった。質問紙調査は小学校1年生から6年生までで行われたが、遅れて収集されたデータは入力学会発表に間に合わなかったこともあり、入力データを増やして論文にまとめることが今後の課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 足立幸子	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 国語学力調査の比較研究 スペインの小学校6年生の全国学力調査を対象として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新潟大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 14-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 足立幸子	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 国際学力調査PIRLSにおけるデジタルリテラシーの評価	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新潟大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 足立幸子	4. 巻 12(2)
2. 論文標題 交流を生かした読書指導：In2Booksの日本における試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新潟大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 121-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 足立幸子	4. 巻 575
2. 論文標題 紹介系読書活動の原理	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊国語教育研究	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 足立幸子	4. 巻 842
2. 論文標題 対話・交流を深める読書活動 読者の状況に着目する読者想定法	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育科学国語教育	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 足立幸子	4. 巻 11(2)
2. 論文標題 「読書へのアニメーション」の日本における導入と展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新潟大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 151-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sachiko Adachi	4. 巻 36(2)
2. 論文標題 Marking 60 years: The Japan Reading Association reflects six decades	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Literacy Today	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 足立幸子	4. 巻 10(1)
2. 論文標題 ジャンルに基づいたノンフィクションの読書指導 Fountas & Pinnell (2012) Genre Studyを対象として	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新潟大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 足立幸子	4. 巻 10(2)
2. 論文標題 国語科指導における思考力(アーギュメンテーション・スキル)の評価 米国ETSのCBALに着目して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新潟大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件(うち招待講演 1件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 足立幸子
2. 発表標題 探究を基にした小集団の読書指導法「インクワイアリー・サークル」 リテラチャー・サークルからの発展を中心に
3. 学会等名 全国大学国語教育学会第138回島根大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hitomi Kambara, Zhidong Zhang, & Sachiko Adachi
2. 発表標題 Examining Japanese Pre-service Teachers' Reading Motivation
3. 学会等名 Literacy Research Association 69th Annual Conference
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hitomi Kambara, Zhidong Zhang, & Sachiko Adachi
2. 発表標題 Understanding Japanese pre-service teachers' reading motivation: gender and parents' education background
3. 学会等名 Association of Literacy Educators and Researchers 63rd Annual Conference
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 足立幸子
2. 発表標題 デジタル・リテラシーの評価
3. 学会等名 全国大学国語教育学会第137回仙台大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hitomi Kambara, Zhidong Zhang, & Sachiko Adachi
2. 発表標題 Reading practices of Japanese pre-service teachers
3. 学会等名 21st European Conference on Literacy (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 足立幸子
2. 発表標題 児童が実感する読書へのアニメーションの効果
3. 学会等名 日本読書学会第63回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 足立幸子
2. 発表標題 スペインの全国学力調査
3. 学会等名 全国大学国語教育学会第135回東京ウォーターフロント大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 足立幸子
2. 発表標題 ジャンルに焦点をあてたノンフィクションの読書指導 Fountas & Pinnell (2012) Genre Study を中心に
3. 学会等名 全国大学国語教育学会第132回岩手大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 足立幸子
2. 発表標題 読むこと・読書の認知的及び非認知的調査（国語教育における調査研究（2）エビデンスの構築とその課題 教育の調査研究）
3. 学会等名 全国大学国語教育学会第132回岩手大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Junsaburo Kamitani, Sachiko Adachi, Kazuaki Iida, Yuji Fujimori and Asato Yoshinaga
2. 発表標題 Comparative Studies of Literacy Education among Japan, Europe, and America in the 21st Century
3. 学会等名 20th European Conference on Literacy, International Development in Europe Committee (IDEC) of the International Literacy Association (ILA) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 足立幸子
2. 発表標題 パートナー読書In2Booksの探究的研究
3. 学会等名 日本読書学会第61回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 足立幸子
2. 発表標題 米国における目的に応じたジャンルの指導
3. 学会等名 全国大学国語教育学会第133回福山大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 全国大学国語教育学会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 201
3. 書名 新たな時代の学びを創る小学校国語科教育研究	

1. 著者名 日本読書学会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 384
3. 書名 読書教育の未来	

1. 著者名 赤い鳥事典編集委員会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 柏書房	5. 総ページ数 663
3. 書名 赤い鳥事典	

1. 著者名 全国大学国語教育学会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 102
3. 書名 国語教育における調査研究	

1. 著者名 International Literacy Association	4. 発行年 2018年
2. 出版社 International Literacy Association	5. 総ページ数 26
3. 書名 The case for children's rights to read	

1. 著者名 日本図書館情報学会研究委員会編（平久江祐司、今井福司、岩崎れい、中村百合子、足立幸子、塩谷京子、庭井史絵、松田ユリ子、野口武悟、大平睦美）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 183
3. 書名 学校図書館への研究アプローチ	

1. 著者名 塚田泰彦、甲斐雄一郎、長田友紀編（塚田泰彦、甲斐雄一郎、小久保美子、森田真吾、島田康行、青山由紀、飯田和明、八木雄一郎、石塚修、鈴木貴史、中嶋真弓、足立幸子、勸米良祐太、迎勝彦、秋田哲郎、小林一貴、森田香緒里、渡部洋一郎、浮田真弓、細川李花、石田喜美、田中耕司、長田友紀、勝田光）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 197
3. 書名 初等国語科教育	

1. 著者名 柴田義松、阿部昇、中村哲也、鶴田清司、中村敦雄、大内善一、森篤嗣、加藤郁夫、足立幸子、小林義明、須貝千里、藤川大祐、二杉孝司、高橋俊三、上條晴夫、望月善次、足立悦男	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 217
3. 書名 あたらしい国語科指導法（五訂版）	

1. 著者名 阿部藤子・益地憲一編（相原貴史、成田信子、宗我部義則、芥川元喜、植西浩一、佐渡島紗織、萩中奈穂美、足立幸子、中村和弘、清水文博、細川太輔、森顕子、小野澤由美子、岡田博元、藤枝真奈、下田聡子）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 建帛社	5. 総ページ数 207
3. 書名 小学校国語科教育法	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----